『日本語学論集』第6号　２０１０年３月

日韓両言語のアスペクト形式の様相に関する研究
—翻訳書を中心に—

李　忠均

0. はじめに

日韓両言語のアスペクト形式は、存在動詞を語彙的語源とする同様の性格を持ち、日本語には、アスペクト的意味を表す代表形式として「シテイル」形があり、動作の進行（継続）を表す場合は、韓国語の「-고 있다(-ko issta)」[注1]に、結果存続の意味を表す場合は、「-고 있다(-ko issta)」[注2]と「-어 있다(-e issta)」に対応すると言われている（梅田 1991、浜之上 1992)。ところが、韓国語の場合、状態動詞（形容詞）は「基本形（-Φ-)」が、その他の動詞は「基本形＋-느-(-nu-)／-는-(-nun-)」がよく用いられ、実際に日本語と韓国語の対応様相をみると、必ずしもシテイル形が「-고 있다(-ko issta)」形や「-어 있다(-e issta)」形に対応しているとは言えない例が多数見られる。まず、『1Q84』の冒頭の部分を紹介する。

(1) タクシーのラジオは、FM 放送のクラシック音楽番組を流していた。曲はヤナーチェックの『シンフォニエッタ』。渋滞に巻き込まれたタクシーの中で聴くのにうってつけの音楽とは言えないはずだ。運転手もとくに熱心にその音楽に耳を澄ませているようには見えなかった。中年の運転手は、まるで舳先に立って不吉な潮目を読む老練な漁師のように、前方に途切れなく並んだ車の列を、ただ口を閉ざして見つめていた。青豆は後部席のシートに深くもたれ、軽く目をつむって音楽を聴いていた。

택시 라디오에서는 FM방송의 클래식 음악이 흘러나오고 있었다. 곡은 야니체크의 <신포니에타>. 정체에 말려든 택시 안에서 듣기에 어울리는 음악이랄 수는 없었다. 운전기사도 딱히 음악에 귀를 기울이는 것 같지는 않았다. 중년의 운전기사는 마치 뱃머리에 서서 불길한 물때를 읽어내는 노련한 어부처럼 앞쪽에 끊임없이 늘어선 자동차 행렬을 입을 꾹 다물고 바라보고 있었다. 아오마메는 뒷좌석 깊숙이몸을 묻고 가볍게 눈을 감은 채 음악을 들었다.

例（1）をみると、日本語のシテイル形に対応する韓国語は、「-고 있다(-ko issta)」と「-느-(-nu-)／-는-(-nun-)」であり、最後の「聴いていた」は、テンス的に過去ないしはパーフェクト的意味を持つ「-었-(-ess-)」を用い、「들었다（聴いた）」として表れている。つまり、日本語動詞の「はだかの形」は継続中の動作を表現できず、動作の継続を表すには必ずシテイル形が使われるが、韓国語の先語末語尾の「-느-(-nu-)/-는-(-nun-)」は、アスペクト的に動作の進行の意味を表す例が数多く存在し、日本語の「シテイル」に対応するということが窺える[注3]。

・그는 낚시를 한다/하고 있다.
　彼は釣りを*する/している。
・지금 비가 온다/오고 있다.
　今雨が*降る/降っている。

本稿では、シテイル形の理論的意味を考慮した上で、日本の出版物の中、韓国語に翻訳された作品を対象としながら、日本語のシテイル・シテアル形に対応する韓国語のアスペクト形式の様相を調べることにする。

1. 先行研究

韓国語においてのアスペクト研究は、大きく語彙的な意味により動詞を下位分類する研究と形態論的に接近する研究に分けられる。

語彙的アスペクト研究は、油谷幸利（1978）から始まるが、油谷の動詞分類はつぎの表のようである。

A類	[＋状態性][＋結果性]	느끼다(感じる), 믿다(信じる), 알다(知る), 바라다(望む)
B類	[＋状態性][－結果性]	있다(ある・いる), 없다(ない), 모르다(知らない)
C1類	[－状態性][＋瞬間性][＋結果性]	가지다(持つ), 맡다(担う), 이기다(勝つ)
C2類	[－状態性][＋瞬間性][＋結果性]	남다(残る), 비다(空く), 숨다(隠れる)
D類	[－状態性][＋瞬間性][－結果性]	그치다(止む), 다치다(怪我する), 켜다(点ける)
E1類	[－状態性][－瞬間性][＋結果性]	매다(結ぶ), 입다(着る), 쓰다(書く)
E2類	[－状態性][－瞬間性][＋結果性]	뜨다(浮く), 차다(満ちる)
F類	[－状態性][－瞬間性][－結果性]	가다(行く), 놀다(遊ぶ), 먹다(食べる)

정희자（Jung, Hui-Ja、1994）は、アスペクト的特性（aspectual character）として「状態性」「完成性」「瞬間性」を挙げ、「完成性」の下位資質に「結果性」があるという。それで、「状態性」の有無により「状態動詞」と「動作動詞」に分類し、動作動詞は完成性を内包しているか否かにより「過程動詞」と「完成動詞」に分けられる。さらに、完成動詞は瞬間性の有無により、瞬間動詞と非瞬間動詞に区別し、非瞬間完成動詞を「完成動詞」に、瞬間完成動詞を「瞬間動詞」と規定する。また、結果性の有無により、完成動詞と瞬間動詞をそれぞれ「結果性動詞」と「非結果性動詞」に分類し、結果性動詞は結果存続の意味を表すと述べる。各動詞の説明は以下のようである。

・状態動詞：높다(高い), 낮다(低い), 검다(黒い), 희다(白い), 있다(ある・いる), 없다(ない)などの形容詞と存在詞。時間的の流れによる変化や動きが行われず、始発・展開・完成の内的時間構成局面を持たないため、無標の「-Φ-」と結合し発話時の状態を表し、「-었-(-ess-)」と結合し発話時以前の状態を表す。

・過程動詞：불다(吹く), 흐르다(流れる), 사랑하다(愛する), 걷다(歩く), 달리다(走る)などの非限定的期間（indefinite time period）の変化や動きが続くことを表す動詞であり、先語末語尾の「-느-(-nu-)／-는-(-nun-)」と共起し、発話時を持つ時区間に起こる状況を指示し、「-었-(-ess-)」の場合は、状態動詞と同じく発話時以前の状況であることを指示する。「-고 있다(-ko issta)」と結合すると進行の意味が強化される。

・完成動詞：結果性または非結果性の両方の意味を表すことができる動詞は、닫다(閉める), 열다(開ける), 앉다(座る), 피다(咲く), 입다(着る)などがあり、動作が完成点に到達した結果として表れる状態が発話の焦点（結果性の意味を持つ）の場合は、「-어 있다(-e issta)」または「-고 있다(-ko issta)」と結合し、結果存続の意味を表す。非結果性の意味のみ持つ動詞は、쓰다(書く), 먹다(食べる), 만들다(作る)などがある。

・瞬間動詞：瞬間性を内包している動詞で、瞬間動詞が表す状況は展開過程の時間幅極めて狭いため、始発と完成がほとんど同時に行なわれる状況である。結果性の意味を持つ動詞としては、죽다(死ぬ), 도착하다(着く), 끊기다(切れる), 넘어지다(倒れる)などがあり、非結果性の動詞は、끝나다(終わる), 이기다(勝つ), 차다(蹴る), 때리다(殴る)などがある。

形態論的研究では、完了と未完了の対立から個々のアスペクト的な意味が分けられるという見解が一般的であり、「-어 있다(-e issta)」と「-고 있다(-ko issta)」に限り、その研究をみることにする。

まず、김성화（Kim, Sung-Hwa、1992）によるアスペクトの体系は、つぎの表のようである。

終結相	結果性	自動性	-어 있다(-e issta)
		他動性	-고 있다(-ko issta)
持続相	進行性	目標志向性	-고 있다(-ko issta)

고영근（Ko, Yeng-Kun、2004）のアスペクトの体系もそう違わない。

完了相		-어 있다(-e issta)、-고 있다(-ko issta)
未完了相	進行相	-고 있다(-ko issta)

一方、박주원（Park, Ju-Won、2009）は、「-어 있다(-e issta)」の場合は結果存続の意味を、「-고 있다(-ko issta)」の場合は動作の進行を表す場合と結果存続の意味があるという一般的な見解とは違って、両方とも固定的な機能を持っておらず、結合する動詞や文の他の要素、文脈との関係で互いに影響を及ぼし、その結果特定の意味が表れると説明する。

因みに、現代韓国語において「-고 있다(-ko issta)」のみが多義的な意味を持ち、「-어 있다(-e issta)」はそうではないことについて、허웅（許雄、1995）は次のように述べている。

> 15 世紀、「-고 있다(-ko issta)」形はあまり現れておらず、「-어 있다(-e issta)」形はとても生産的であった。・・・「-어 있다(-e issta)」形が使われない言葉は、すべて「-었-(-ess-)」形にその座を譲ったことであって、両方とも用いられるのは昔の語形と新たに発達した語形が共存していることを表す。・・・「-어 있다(-e issta)」が「-었다(-essta)」に変わった後、元来「-어 있다(-e issta)」形が担っていたところに「-고 있다(-ko issta)」が入ってきて、旺盛な生産性を発揮するようになった。こういうことで「-어 있다(-e issta)」と「-고 있다(-ko issta)」は完全に分離された語形ではなく、歴史的過渡期で見られる「重なった異形」として見ることができる。従って、二つの語形は完全に対立しているとは見られない。（拙訳）

最後に、日韓両国語のアスペクト形式を意味的に比べてみると、韓国語の「-느-(-nu-)」形は、基本的に日本語のはだかの形（スル形）と同じ働きをしながら、シテイル形のなか、動作の進行（動作継続）・繰り返しの意味も表す。「-고 있다(-ko issta)」形は、シテイル形のもつ動作の進行（動作継続）・繰り返しの意味と同じ働きをする。「-어 있다(-e issta)」形の場合は、シテイル形の結果存続・繰り返しの意味やシテアル形の結果存続の意味に対応する。「-었-(-ess-)」形は、日本語の「シタ」形と似たような

働きをし、テンス的には過去の意味を、アスペクト的にはパーフェクトや単なる状態の意味を表す。これを簡単に表[注 4]でまとめると次のようである。

完成性（相）	-느-(-nu-)[注 5]	「する」に相当する
継続性（相）	-느-(-nu-)	動作継続（終了前の段階）を表す「シテイル」に相当する
	-고 있다（-ko issta）	動作継続（終了前の段階）を表す「シテイル」に相当する
	-어 있다（-e issta）	（主体）結果存続（終了後の段階）を表す「シテイル」に相当する
	-느-(-nu-) -고 있다（-ko issta） -어 있다（-e issta）	繰り返しを表す「シテイル」に相当する
	-었-(-ess-)	パーフェクト（いわゆる経験・記録）を表す「シテイル」に相当する
	-었-(-ess-)	単なる状態を表す「シテイル」に相当する

2.『1Q84』

この節では、村上春樹の『1Q84』とその韓国語の翻訳本である양윤옥（Yang, Yoon-Ok）訳の『1Q84』の中で表れるアスペクト形式の様相を調べることにする。実際の様相は次の表のようである。

	-고 있다(-ko issta)	-어 있다(-e issta)	-느-(-nu-)	-었-(-ess-)
シテイル	724	306	664	585
シテアル	1	2	0	0

表の結果をみると、日本語のシテイル形を韓国語へ訳する際、「-고 있다(-ko issta)」（31.8%）や「-어 있다(-e issta)」（13.4%）だけでなく、「-느-(-nu-)」（29.1%）や「-었-(-ess-)」（25.7%）に訳される例が数多く存在するという事実がわかる。つまり、日本語のアスペクト的形式であるシテイル形に対応する韓国語のアスペクト的形式は、「-고 있다(-ko issta)」や「-어 있다(-e issta)」であるとは断言できない結果が出ている。むしろ、「-고 있다(-ko issta)」や「-어 있다(-e issta)」より「-느-(-nu-)」や「-었-(-ess-)」ほうが僅かに好まれているのがみられる。

具体的に例を見てみると、例（2）の場合、前挙の例（1）と比べると日本語の「済ませている」に対応する韓国語の訳が「-느-(-nu-)」形の「기울이는」と「-고 있다(-ko issta)」形の「기울이고 있는」の二通りになっている。 安平鎬・田恵敬（2007）によるとアスペクト的に動作継続（動作の進行）の意味を表す際、動態的な動きを伴う動詞は「-느-(-nu-)」形を、静態的な動作（静止動作）を表す動詞は「-고 있다(-ko issta)」形を用いるなど、動詞の種類により使い分けがあると述べているが、例（1）と（2）は必ずそうであると説明することができない例である。このような様相は、動詞の種類よりは文のなかでの動作進行の意味の度合いの差（-고 있다(-ko issta)>-느-(-nu-)）によるものと思われる。例（3）の「歩いている」は、韓国語では「걷다(歩く)」が過程動詞であるため、「-느-(-nu-)」形の「걷는」でも発話時を持つ時区間に起こる状況を十分指示することができる。例（3）と同じく、例（4）の「判断を保留している」は、韓国語では「-느-(-nu-)」形の「유보하는」が一般的な使い方である。例（5）は、小松の性格を描写している例であり、根本的な性質や繰り返しなどを表すとき、「-느-(-nu-)」形が用いられる。（6）と（7）は、「-느-(-nu-)」形のみで動作の進行の意味を十分表している例である。例（8）は、「-느-(-nu-)」形が単なる状態の意味を表している。

(2) 終わりのない火星の砂嵐に耳を<u>済ませている</u>みたいな気持になる。
끝없는 화성의 모래바람에 귀를 <u>기울이고 있는</u> 듯한 느낌이 든다.
(3) 荒波の上に浮かんだ航空母艦の甲板を<u>歩いている</u>ようだ。
거친 파도 위에 떠오른 항공모함의 갑판 위를 <u>걷는</u> 것 같다.
(4) 彼らは一時的に判断を<u>保留している</u>ようだった。
그들은 일시적으로 판단을 <u>유보하는</u> 듯했다.
(5) 何かあっていったん黙り込むと、月の裏側にある岩みたいにいつまでも<u>黙っている</u>。
무슨 겨를엔가 일단 입을 꾹 다물면 달의 뒷면에 박힌 바위처럼 한없이 <u>침묵한다</u>.
(6) 青豆はその手紙を<u>読んでいるうちに</u>、ひどく気分が悪くなってきた。
아오마메는 그 편지를 <u>읽으면서</u> 지독히 속이 울렁거렸다.
(7) 中で犬が<u>吠えている</u>だけだ。
안에서 개가 <u>짖을</u> 뿐이었다.
(8) なんといっても内容が<u>優れている</u>。
뭐니뭐니해도 내용이 <u>아주 뛰어나</u>.

次の（9）、（10）は、単なる状態を表す時、韓国語は「-었-(-ess-)」形を用い、「말랐다」や「시들었다」で表している例である。これは、一見単なる状態を表わす形式が日

本語の場合は現在であるのに対して、韓国の場合は過去であるようにみえるが、韓国語の「-었-(-ess-)」形は現在の単なる状態の意味を表すことも可能であり、従って、韓国語の「-었-(-ess-)」形は、過去・パーフェクト・単純状態の意味を表す形式であることがわかる。

(9) 喉が渇いている。
목이 말랐다.
(10) 葉はぼろぼろになり、あちこちで茶色く枯れている。
잎사귀는 너덜너덜하고 갈색으로 시들었다.

つぎの (11)、(12) は日本語ではシテイル形を持って表現されるのが、韓国語は普通「-느-(-nu-)」形を使っているということを明らかに表している例である。特に韓国語で知覚の意味を持つ動詞は、「-고 있다(-ko issta)」形だけでなく、普通「-느-(-nu-)」形も用いられている。

(11) 小松という男にはどこかはかり知れないところがあった。何を考えているのか、何を感じているのか、表情や声音から簡単に読みとることができない。そして本人も、そうやって相手を煙に巻くことを少なからず楽しんでいるらしかった。
고마쓰라는 남자에게는 어딘가 가늠하기 힘든 데가 있다. 뭘 생각하는지 뭘 느끼는지, 표정이나 목소리에서 간단히 읽어낼 수가 없다. 그리고 본인도 그렇게 연막을 피우는 것을 적잖이 즐기는 것 같았다.
(12) この世界は自分が中心になって動いていると思っている。自分がいなければ地球はうまく動かないだろうと考えている。
세상은 자신을 중심으로 돌아간다고 생각한다. 자기가 없으면 지구가 제대로 돌아가지 않을 거라고 생각한다.

(13)、(14) は、重複回避のため、両方の形式を交代使用している例であり、この場合の「-고 있다(-ko issta)」形と「-느-(-nu-)」形の意味の差はほとんど存在しないとも考えることができる。
(13)「しかしそれと並行して、農業以外の何かがそこで進行しているようだった。いくらなんでも農作物の販売だけで、そのような規模拡大のための資金がまかなえるわけはない。そして『さきがけ』の内部で何が進行しているにせよ、…」
하지만 그것과 병행하여 농업 이외의 무언가가 그곳에서 진행되는 거 같았네. 아무리 그래도 농작물의 판매만으로 그만큼 큰 규모로 확장하는 데 필요한 자금을 충당할 수는 없지. 또한 그 코뮌 내부에서 무슨 일이 진행되고 있건.

(14)「かきなおしはうまくすすんでいる」… 書き直し作業が順調に進んでいることを、彼女なりに喜んでいるみたいに聞こえた。

"고쳐 쓰기는 잘 되고 있어요." … 고쳐 쓰는 작업이 순조롭게 진행되는 것을 그녀 나름대로 기뻐하는 것처럼 들렸다.

例（15）は「-고 있다(-ko issta)」形として用いられた例であり、（16）は「-느-(-nu-)」形が用いられた例である。ちなみに、例（15）、（16）の「進行していた」「前進している」は、韓国語に訳するとき、（16）の「改良されている」のように、「진행되고 있었다」「진전되었다」、つまり「～された」のように訳されている。このようなことについては、今度の課題としたい。

(15) 月では恒久的な観測基地の建設が進行していた。そこではアメリカとソビエトが珍しく協力し合っていた。南極の観測基地のケースと同じようだ。月面基地？と青豆は首をひねった。そんな話は聞いたことがない。いったいどうなっているのだろう？

달에서는 항구적인 관측기지 건설이 진행되고 있었다. 그곳에서는 미국과 소비에트가 웬일로 서로 협력하고 있었다. 남극 관측기지의 경우와 마찬가지로. 근데, 월면기지라고? 아오마메는 고개를 갸웃했다. 그런 이야기는 들어본 적이 없어. 대체 어떻게 된 거지?

(16) 文章は改良されている。ものごとは前進している。しかし十分とはいえない。やらなくてはならないことはまだ数多くある。あちこちで土嚢が崩れている。機関銃の弾丸が不足している。鉄条網が手薄になっている箇所も見受けられる。

문장은 개선되었다. 상황은 진전되었다. 하지만 충분하다고는 할 수 없다. 하지 않으면 안 될 일이 아직 많다. 여기저기에 흙 포대가 무너져 있다. 기관총 탄환이 부족하다. 철조망이 허술해진 곳도 눈에 띈다.

(17) は、日本語のシテアル形が韓国語の「-고 있다(-ko issta)」形として訳された例である。また、（18）は日本語の「書かれている」が韓国語の受身・使役の語尾接辞である「히」が用いられた「적힌」になり、「-느-(-nu-)」形をとっている例である。

(17)「少女たちのレイプが組織ぐるみで行われていることについては、確かな裏をとってあります」

"소녀들에 대한 성폭행이 조직적으로 이루어진다는 확실한 증거를 갖고 있어요."

(18) そこに書かれている様々な条件や条項を頭の中で検討し、それのもたらす結果について熟考した。

그곳에 적힌 다양한 조건이며 조항을 머릿속에서 검토하고, 그것이 몰고 올 결

과에 대해 숙고했다.

日本語のシテイル形に対応する「-고 있다(-ko issta)」形と「-느-(-nu-)」形の例のなか、アスペクト的に動作の進行を表す例数と、믿다(信じる)，느끼다(感じる)，알다(知る・わかる)，바라다(望む)，생각하다(考える)などの知覚動詞と活用する場合の例数を表としてまとめると次のようである。

	-고 있다(-ko issta)	-느-(-nu-)
動作の進行	111	105
知覚動詞	137	124

表をみると、「-고 있다(-ko issta)」形と「-느-(-nu-)」形は、動作の進行の意味を表すときは、51.4：48.6、知覚動詞と共に用いられるときは、52.5：47.5になるなど、ほぼ同じ比率を見せている。つまり、文のなかでの動作の進行の意味を出すため、「-고 있다(-ko issta)」形が用いられたりする例があるが、動作の進行を表す場合にも、知覚動詞と活用する場合にも「-고 있다(-ko issta)」形と「-느-(-nu-)」形の差は感じられがたい。実際にも重複回避のため、両方の形式が交代に現れたりする例が多数ある。一方、知覚動詞は油谷のA類に属する動詞（心理動詞、知覚動詞）であり、韓国語の場合、状態動詞（形容詞）の1種類としてみなす研究が説得力を得ている。(정언학（Jung, Un-Hak、2006）박주원（Park, Ju-Won、2009))

3. 日本の国語教科書の対訳文庫

ここでは、日本の小・中・高の国語教科書の中から韓国語に翻訳したテキスト（『日本の小学校5年生の国語教科書選』、『日本の中学校の教科書選』、『日本の高等学校の教科書選』）を中心として、日韓のアスペクト形式の対応様相を調べることにする。

次の表は、国語教科書の対訳文庫からみられるシテイル形と対応する韓国語のアスペクト形式の例を表で整えたものである。

	-고 있다(-ko issta)	-어 있다(-e issta)	-느-(-nu-)	-었-(-ess-)
シテイル	113	72	13	13
シテアル	0	6(1)[注6]	0	0

上の表からみると、日本語のシテイル形は、韓国語の場合、「-고 있다(-ko issta)」形が53.5%、「-어 있다(-e issta)」形が34.1%、「-느-(-nu-)」形と「-었-(-ess-)」形がそれ

ぞれ 6.2%である。これは『1Q84』の場合と大分違う結果であり、日本語のシテイル形に対応する韓国語は「-고 있다(-ko issta)」形と「-어 있다(-e issta)」形であるという主張が妥当にみられるかもしれない。ところが、日本の国語教科書の対訳文庫は、あくまでも日本語の学習者のための参考書であり、本の主旨にも学習のためにできるだけ直訳をしていると明かしているということからみると、日本語のシテイル形に対応する韓国語は「-고 있다(-ko issta)」形や「-어 있다(-e issta)」形が一般的な対応関係であるとは認められない。

まず、例（19）は、国語教科書の対訳文庫のなかでは、「-느-(-nu-)」形が極めて少ないなか、反復（繰り返し）の意味をもつ「-느-(-nu-)」形が用いられた例である。

（19）今は気象庁の仕事をしているから都会生活だけれど、いつかまた沖縄でくらしたいとお母さんに言っているのを、守は何度か聞いたことがある。（ヤドカリ探検隊）

지금은 기상청 일을 하고 있기 때문에 도시생활이지만 언젠가는 다시 오키나와에서 살고 싶다고 어머니에게 말하는 것을, 마모루는 몇 번인가 들은 적이 있다.

例（9）、（10）でみたように、一般的に「似ている」のようなアスペクト的に単なる状態の意味を表す韓国語の対応形式は、日本の「タ」に相当する韓国語の「-었-(-ess-)」を用い、「닮았다」として訳されるのが一般的である。浜之上（1992）によると「-었-(-ess-)」だけではなく、「-고 있다(-ko issta)」あるいは「-어 있다(-e issta)」形が用いられる例もあると指摘しているが、例（21）の「生えている」を「-고 있다(-ko issta)」を用いた「자라고 있다」と「-어 있다(-e issta)」を用いた「나있다」の例が見つかった。それは、単なる状態を表す場合、「-었-(-ess-)」だけではなく、「-고 있다(-ko issta)」あるいは「-어 있다(-e issta)」形が使われる傾向があるということを示していると思われる。

（20）「テントの中から顔だけ出して外をながめているのは、ヤドカリとちょっと似ているね。」（ヤドカリ探検隊）

“텐트 안에서 얼굴만 내밀고 밖을 바라보고 있는 건, 소라게랑 좀 닮았는걸.”

（21）「おじさんの友達は、この木を『昼ねの木』とよんでいた。この辺りの島にたくさん生えているありがたい木だよ。」（ヤドカリ探検隊）

“아저씨 친구는 이 나무를 ‘낮잠 나무’라고 불렀어. 이 근처 섬에 많이 자라고 있는 고마운 나무야.”

（22）水は清く澄んで、大空を横ぎる白雲の断片を鮮やかに映している。水のほとりには枯れ蘆がすこしばかり生えている。（武蔵野）

물은 아주 맑아서 넓은 하늘을 가로지르는 흰 구름 조각을 선명하게 비추고 있다. 물가에는 마른 갈대가 조금 나있다.

例（23）の「耳にしていたし」は「들었었고」のようにテンス的に過去の意味とアスペクト的にパーフェクトの意味をもつ「-었었-(-essess-)」形として訳したほうがもっと自然な意味になる。これは、「耳にしていた」のシテイルは、パーフェクト的意味を表しており、タ形はテンス的に過去の意味を表していることと似ていると思われる。また、敢て本文で「-고 있다(-ko issta)」形を用いたのは、直訳を重視するという対訳文庫の限界性がみられる。

（23）というのは、かねて閏土という名は耳にしていたし、同じ年ごろなこと、また閏月の生まれで、五行の土が欠けているので父親が閏土と名づけたことも承知していたから。（故郷）

왜냐하면 전부터 룬토라는 이름은 듣고 있었고, 비슷한 나이라는 것, 또 윤달생으로 오행에서 '흙 토'가 빠져 있어 그의 아버지가 룬토라고 이름 지은 것도알고 있었기 때문에.

例（24）のように、語彙的に動きの意味がつよい「回る」が「ころ」のような時を示す副詞と時間関係を表す副詞節を成す場合は、「-ㄴ-(-nu-)」形を用いた方がより一般的である。ところが、国語教科書の対訳文庫ではこの１例しか見られない。

（24）わたしたちに会って回っていたころのルロイ修道士は、身体じゅうが悪い腫瘍の巣になっていたそうだ。（握手）

우리들을 만나며 돌아다니던 무렵의 르로이 신부는, 몸 전체가 악성 종양의 소굴이 되어 있었다고 한다.

例（25）は、アスペクト的に反復の意味を表しているため、パーフェクト的意味を持つ「-었-(-ess-)」を用い、「되었다（なった）」と訳さなければならないが、「-고 있다(-ko issta)」形が使われた対訳文庫の限界性がみられる。

（25）なぜかといえば、この宿場の猫背の駅者は、まだその日、誰も手をつけない蒸し立てのまんじゅうに切手をつけるということが、それほどの潔癖から長い年月の間、独身で暮らさねばならなかったという彼のその日その日の、最高の慰めとなっていたのであったから。（蠅）

왜냐하면 이 숙소의 새우등 마부는 아직 그날 아무도 손을 대지 않은 갓 쪄낸 찐빵에 제일 처음 손을 대는 것이 - 그 만큼 결벽증이 있었기 때문에 오랜 세월 동안 독신으로 지내야만 했던 - 그에게 그날그날의 최고의 위로가 되고 있었기 때문이다.

日本の国語教科書の対訳文庫のなか、シテイル形に対応する「-고 있다(-ko issta)」形と「-느-(-nu-)」形を、動作の進行の意味をもつ例と知覚動詞に用いられる例に分け、その数をまとめると次の表のようである。

	-고 있다(-ko issta)	-느-(-nu-)
動作の進行	65	3
知覚動詞	27	0

『1Q84』でみられたように（例（11)、(12)）、このような知覚動詞（心理動詞）には「-느-(-nu-)」形を使うのがより一般的にもかかわらず、『日本の国語教科書の対訳文庫』ではすべて「-고 있다(-ko issta)」形が用いられている。

4. おわりに

韓国語の場合、動作の進行の意味を明確に表す場合を除くと、普通の日本語のはだかの形に当たる「-느-(-nu-)」形も相当用いられていることがわかった。つまり、日本語のシテイル形に対応する韓国語のアスペクト的形式は、「-고 있다(-ko issta)」と「-어 있다(-e issta)」だけでなく、「-느-(-nu-)」と「-었-(-ess-)」も含まれるといわざるをえない。韓国語において「-느-(-nu-)」形は日本語のはたかの形と違って、そのまま使えることができる非常に安定的な言い方であり、それなりにも十分役割を果たしている。これは、『1Q84』のなかでの使用割合（「-고 있다(-ko issta)」: 31.8%、「-어 있다(-e issta)」: 13.4%、「-느-(-nu-)」: 29.1%、「-었-(-ess-)」: 25.7%）からも窺えることであろう。ところが、最近翻訳書や映画、ドラマなどの翻訳の氾濫で最近の傾向は変わりつつあることも否めない事実であるし、そのことは『1Q84』と『日本の国語教科書の対訳文庫』を比べるともっと明確になる。

박주원（Park, Ju-Won、2009）によると、結果存続の意味の持つ場合、実際の解釈過程で存在動詞の「있다(issta)」は本動詞として機能し（「-어 있다(-e issta)」と「-고 있다(-ko issta)」は、文法化されておらず)、先行する動詞と結合してから語彙的にアスペクトの意味を表している可能性もあると述べるが、このような部分は、これから日本語のアスペクトの意味を究明する際、考慮できるところであると思われる。

また、今度の課題としては、今回で詳しく扱うことができなった知覚動詞における日韓両国語のアスペクト的意味についても考察してみたい。

[注]

1　韓国語のローマ字表記は、Martin et al（1967）の表記法（Yale式）を用いる。

2　動作の進行を表す「-고 있다(-ko issta)」と区別するため、「-고 있다²(-ko issta)」で表記することもある。

3　韓国語の場合、백봉자（白峰子、2006）によると、会話の中では、発話時の動作の継続の意味を言い表すには、むしろ先語末語尾の『-느-(-nu-)/-는-(-nun-)』の方が好まれるが、菅野（1991）は、若者の間では「-고 있다(-ko issta)」を多用する傾向にあると指摘している。

4　安平鎬・田恵敬（2007）の図を参考に用語などを置き換えたものである。

5　「-는-(-nun-)」や「-Φ-」も含む。以下でも同様。

6　括弧の1例は、「-어 놓다(-e nota)」つまり「～して置く」として訳された例である。

[参考文献]

＜資料＞

村上春樹（2009）『1Q84』、新潮社

양윤옥（Yang, Yoon-Ok）訳（2009）『1Q84』、문학동네（ムンハクドンネ）

조주희・백송종（趙柱喜・白松宗）訳註（2007）『日本の小学校 5 年生の国語教科書選』、다락원（タラクウォン）

최재철・조주희（崔在喆・趙柱喜）訳註（2007）『日本の中学校の教科書選』』、다락원（タラクウォン）

최종훈（崔鐘勲）訳註（2007）『日本の高等学校の教科書選』』、다락원（タラクウォン）

＜単行本・雑誌など所収論文＞

梅田博之（1991）『スタンダードハングル講座 2 文法・語彙』、大修館書店

菅野裕臣（1991）「アスペクト―朝鮮語と日本語―」『国文学 解釈と鑑賞』55-1

浜之上幸（1992）「現代朝鮮語の「結果相」＝状態パーフェクト―動作パーフェクトとの対比を中心に」『朝鮮学報』142

油谷幸利（1978）「現代韓国語의 動詞分類－アスペクト를 中心으로－（現代韓国語の動詞分類－アスペクトを中心に－）」『朝鮮学報』87、朝鮮学会

安平鎬・田恵敬（2007）「日韓両言語におけるアスペクト形式に関する研究―小説やシナリオの地の文に用いられる例文を中心に―」『일본학보（日本学報）』73

고영근（Ko, Yeng-Kun、2004）『한국어의 시제 서법 동작상（韓国語の時制・叙法・動作相）』、태학사（テハク社）

김성화（Kim, Sung-Hwa、1992）『국어의 상 연구（国語の相研究）』、한신문화사（ハンシン文化社）

박주원（Park, Ju-Won、2009）「상적 보조동사의 문법상 기능에 대한 비판적 고찰（相的補助動詞

の文法上機能に関する批判的考察)」『국어의 시제, 상, 서법 (国語の時制・相・叙法)』박문사 (BAKMUNSA)
백봉자 (白峰子、2006)『개정판 외국어로서의 한국어 문법 사전 (改訂版 外国語としての韓国語文法辞典)』、연세대학교출판부 (延世大学校出版部)
정언학 (Jung, Un-Hak、2006)『상 이론과 보조 용언의 역사적 연구 (相理論と補助用言の歴史的研究)』태학사 (Thaehaksa)
정희자 (Jung, Hui-Ja、1994)「시제와 상의 화용상 선택조건 (時制と相の語用上選択条件)」『애산학보 (エサン学報)』15、애산학회 (エサン学会)
허웅 (許雄、1995)『20세기 우리말의 형태론 (20 世紀我が言葉の形態論)』、샘문화사 (セム文化社)
Martin, Samuel. E. et al. (1967) A Korean-English Dictionary. New Haven: Yale University Press

(イー　チュンギュン　大学院人文社会系研究科　博士課程 3 年)